

【主な質疑応答】2013年12月期 決算説明会

Q. 欧州の利益改善策を教えてください。

A. 景気が良かった時代は値上げでマージンを維持してきたが、景気悪化により難しくなった。そのため例えばスペインではダウンサイジングを実施し、あえて値下げすることでマージンを改善する取り組みを始めた。また欧州では需給予測の精度が低く、その結果として廃棄損が発生していた。日本のノウハウを持ち込み、需給予測の精度を高めることで利益率を改善していく計画だ。

Q. ルコゼード・ライバーナ(LRS)ののれんについて教えてください。

A. のれん計上額は約100億円で年間5~6億円程度の償却費となる。その他は商標権として約1,800億円を資産計上する。商標権は買収したブランドを評価したもので、歴史ある強いブランドで耐用年数は長く、会計上は償却しないということになった。

Q. アジアで積極的に投資しているが、利益が大きく伸びるのはいつか。

A. アジアで売上規模が2,000億円になると、売上高営業利益率は2ポイント改善するとみている。そのステージに向け、マーケティング投資や容器の内製化を進めている。2016~17年になれば、利益率の改善が進むと見ている。

Q. 2013年は夏場のコスト管理が失敗したということだが、今年はどう改善するのか。

A. 昨年は夏の需要予測を見誤り、一部の商品で品切れを起こしてしまった。今年は機会損失を避けることで利益改善できる。また宣伝費投入に見合った売上を獲得できなかったブランドがあったことについては、月々の予算管理を徹底する。

Q. 缶コーヒー「ボス」の戦略について教えてください。

A. 昨年、社内でプロジェクトを立ち上げコーヒーについて消費者調査をした。かつて「ボス」は働く男性のイメージでブランドを築き上げ、その層に一点集中すれば売れたが、現在は女性などお客様の層も広がり、それぞれのお客様に合わせた品揃えが必要だと考えている。

Q. 2014年の業績予想が保守的な印象だが、考え方を教えてください。

A. 不確実な事業リスクを含めた上で出した数字だ。仮に国内がすべてうまくいったら、少し上振れする可能性はあるかもしれない。

Q. 年間の営業利益の上期と下期の比率は。

A. 4対6くらいのイメージ。上期も前年同期に比べ増益の計画だ。

Q. 2014 年の特別損益の中身を教えてください。

A. 例年ある程度発生する国内の自販機や工場設備の除却損が 40 億円程度。残りの 50 億円程度は主に国際事業のビジネス効率化のための組織再編関連費用で、現時点での見通しを数字に含めた。話せるタイミングが来たらお話ししたい。

Q. 配当の考え方を教えてください。

A. 配当性向はのれん償却前当期純利益に対して 30%以上を目安としている。2013 年度の配当は普通配当の 53 円と上場記念特別配当の 5 円をあわせて 58 円だが、2014 年度は利益を上げることにより、普通配当を 58 円に増やす予定だ。

Q. サントリーHDがビーム社の買収を発表したが、サントリーBF に与える影響は。

A. 親会社の借金が増えたからといって、親会社の意向で配当性向を上げたり、ロイヤリティを増やしたりすることはない。株の売却も現時点ではないと聞いている。影響はほとんどない。